

喜界島ジオパーク基本構想



喜界島ジオパーク推進協議会

目次

はじめに (p1～p3)

- 1 喜界島の地勢・現状・・・p1
- 2 基本計画の目的と位置づけ・・・p1～p2
- 3 ジオパークとは・・・p2～p3
- 4 ジオパーク活動で可能な地域の発展・・・p3
- 5 喜界島ジオパークのこれから・・・p3

取組 (p4～p6)

- 1 観光・・・p4～p5
- 2 教育・研究・・・p5
- 3 防災・・・p5～p6
- 4 保全・・・p6
- 5 運営・・・p6

はじめに

1. 喜界島の地勢・現状

① 地勢

喜界島は、奄美群島の東北端、北緯 28 度 20 分、東経 130 度 00 分の地点にあり、鹿児島港から約 368 k m、沖縄那覇港から約 322 k m、奄美大島から最短距離で約 24 k m の洋上にある島です。総面積は、56.82 k m あり、南南西から北東に長く 14 k m、東西の最長 7.75 k m、周囲は約 50.0 km、最高位は、211 m となります。人口は、6,629 人（2020 年、国勢調査）となっており、基幹産業は農業と畜産業で、アルカリ性土壌を活かしたさとうきび栽培や園芸、子牛の生産が盛んとなっています。平坦な島であり、島の大半は隆起サンゴ礁です。

② 現状

喜界島でも、日本全国と同じく高齢化の波が進んでおり、高齢化率が 40.4%（2020 年、国勢調査）となっており、全国平均の 28.6%（2020 年、国勢調査）を大きく上回っているのが現状です。また、人口減少も著しく、1960 年に 14,738 人以上いた人口も半分以下となっています。高齢化・人口減少に伴い、基幹産業である農業の担い手も減少していることから、対策が急務となっています。

また、奄美群島においては、奄美大島、徳之島、沖縄北部及び西表島の世界自然遺産登録へ向けた自然資源の保護・保全やエコツアーガイド認定制度の構築など、自然保護・観光振興を目的とする取組が、多様な主体により実施されています。本町においても多様化する観光ニーズに対応しうる戦略的な観光振興施策の展開を図っていく必要があり、前述したように、人口減少・高齢化が急速進展する中、交流人口の拡大により地域の活性化につなげていくことが求められています。喜界町では「喜界町第六次総合振興計画」、「喜界町観光振興計画」を策定し様々な施策を行っています。

2. 基本計画の目的と位置づけ

喜界町は「喜界町第六次総合振興計画」を策定し、「子や孫の世代が住んでよかったと思える元気な島」を将来像として掲げています。この実現に向け、次の 5 つの基本理念を設定しています。

- 1 町民一人ひとりが健康で輝くまちづくり
- 2 安心・安全で美しいまちづくり
- 3 賑わいのある活気あふれる島づくり

- 4 島で育む、きらりと輝く人づくり
- 5 未来へつなぐ地域づくり

また、本町の最上位計画である喜界町総合振興計画に基づき、「喜界町観光振興計画」を策定しました。本計画では、以下の基本方針を掲げています。

- 1 喜界島の特色ある地域資源を活用したアカデミックな観光の展開
- 2 農業など一次産業と地域の食をつなぐ観光の推進
- 3 自然資源の保全・活用と広域的なエコツーリズムの促進
- 4 歴史や文化、集落景観を生かした観光の推進
- 5 地域住民が島の魅力を伝える仕組みづくりと人材育成
- 6 観光動向を把握した計画的な情報発信と観光基盤の整備

ジオパークに関する取組として、喜界島は世界地質遺産にも選ばれた、世界的にも貴重で学術的価値の高い島です。この貴重な地質・地形資源や自然を保全・活用することで、島民一人ひとりが喜界島の魅力を理解し、発信することが求められます。さらに、島民と来訪者との交流を促進し、関係人口の増加を図ることが重要です。こうした取組は、上述の基本計画を実現する具体的な施策として位置づけられます。

これらの取組を通じて、交流人口の増加、雇用の創出（農業の担い手不足解消）、人口の増加、地域に誇りを持つ島民の育成につながることを目的として基本構想を策定するものです。また、観光、教育、歴史、文化など多分野に関わることから、行政内各部署が横断的に連携するとともに、教育機関や研究機関、地域住民などの関係者が一丸となって取り組んでいく必要があります。

次項より、具体的な活動内容である観光・教育・研究・防災・保全・運営に関して計画を記します。この計画は、数年ごとに適宜見直しが行われ、修正されることを前提につくられています。

3. ジオパークとは

GEO（地球・大地）と PARK（公園）を組み合わせた造語で「大地の公園」とも言われています。

地形・地質などの自然資源の地域を観察し、その成り立ち等を読み解き、そこにある生態系やそこで暮らす人々の歴史や文化との関わりを考える場所となっています。

持続可能な地域社会の形成や地域振興のために、地域の様々な自然資源の保全と教育や観光等への活用を図る仕組みとなっています。

4. ジオパーク活動で可能な地域の発展

少子高齢化が進む喜界町ではありますが、世界有数の隆起スピードで隆起するサンゴ礁で形成された島であり、サンゴの石垣等の魅力的な集落景観やサンゴ礁と共生してきた歴史・文化が密接に関係している希少価値の高い島となっています。

そこで、ジオパークの活動を通し、地域文化の掘り起こしやサンゴ礁科学研究所等と連携を図り、島の魅力を島内外へ発信することで、地域文化の継承、交流人口の増加など地域の活性化につなげていければと考えています。また、喜界島は、過去 10 万年から現在のサンゴ生態系を学ぶ上で、世界的に希少な地域ですが、地域住民や観光客が喜界島の自然の素晴らしさを十分に理解する場がないのが現状です。そのため、地域住民が喜界島の特異的なサンゴ礁と共生してきた文化、地形や生物多様性を自ら発信することが出来るよう、喜界島全体をジオミュージアムとして捉え、地域住民が主体となった「喜界島サンゴ礁ミュージアム」づくりを実施し、喜界島の自然・文化資源価値の再認識とそれを活かした地域の活性化を考えています。

さらに、隆起後 10 万年と若い土壌で育まれた在来柑橘類、日本一の生産量を誇る白ごまなど農業資源も有していることから、ジオパークと結びつけた産業の活性化も目標としています。

以上のことを踏まえ、島民自身が島のことを学び、誇りを持って語れるようになり、「子や孫の世代が住んでよかったと思える元気な島」と思えるよう、次世代へ繋げていければと考えています。

5. 喜界島ジオパーク（構想）のこれから

「喜界島ジオパーク推進協議会」を設立し、本格的活動を行っていきたいと考えています。2019 年 4 月以降に、喜界島ジオパーク推進協議会を日本ジオパークネットワーク（以下「JGN」という）の準会員に申請し、順次、JGN 正会員に向け、環境の整備を行っていきます。

取組

1. 観光

① ウェブサイト

現在、本町のホームページには、ジオパークに関する情報がありません。今後は、ジオパークに関する情報をまとめたページをつくり、情報発信をしていきます。本町の住民への周知とともに、本町に興味を持った方々が、町のホームページから情報を得て理解し、スムーズに来島するための手助けとなるウェブサイトの充実を図ります。

② パンフレット

ジオパークはまだ認知度が低いため、「ジオパークとは何か？」から解説を始め、ジオパークとしての喜界島の特徴や見所を概説できるものを作成します。また、ジオストーリーをまとめた詳しいパンフレットを作成することを検討します。

③ 看板

実際に島に来島した方が、喜界島がジオパークを目指していることを認識できるように、総合案内板の設置を検討します。また、各サイトにサイト案内看板を設置し、そのサイトで見るとべきポイントや重要性などを記したサイト案内看板を整備します。

④ ガイド

現状では、地質学的な内容を説明出来るガイドは少数しかおりませんが、エコツアーガイドやボランティアガイド”よんよーり”と呼ばれるガイド組織があります。また、喜界島には喜界島サンゴ礁科学研究所や埋蔵文化財センター、歴史民俗資料室があり、自然や歴史について学ぶ機会を設けることは可能です。今後、喜界島サンゴ礁科学研究所や埋蔵文化財センター等と連携して、ガイド講座を実施していきます。また、リスクマネジメントや安全確保等について学べる場を設け、専門知識だけではない質の高いガイドの養成につなげます。

⑤ ツアー

ジオパークとしての来島者を増加させるため、ツアーの開催を検討します。島民ガイドの実践の場であり、来島者の増加を島民に実感して貰うことも目的の一つとなります。ツアー内容は、今後検討していきます。

⑥ 認定商品

地域への収益をあげるため、ジオパークに関連した認定商品を検討します。

⑦ 調査

来島者の来島目的の情報把握やジオパーク活動の評価につなげるアンケート調査等を行い、喜界島に求められているものの把握及びジオパーク活動の発展につなげていきます。

2. 教育・研究

① 教育

現在、喜界島サンゴ礁科学研究所において、学習指導要領にもとづいて島内の小・中学校でのジオパーク学習や小・中・高校生を対象にしたサイエンスキャンプを行っています。さらにサンゴ留学生（離島留学生）を受入れし、喜界高等学校へ通うサンゴ留学生に対して、サンゴ塾を開講しています。これらの活動にジオパーク活動の話を組み込むことでジオパークに関する教育につなげられればと考えています。引き続き、各学校のカリキュラムに対応した支援づくりを行います。

② 生涯教育

今後は一般向けの「公民館講座」と呼ばれる学習の場の提供や講座等を行うことで、生涯教育にもつなげていきます。町も一体となり、ジオパークの教育に携わっていただければと考えます。

③ 研究

現在、喜界島の魅力を引き出すため、喜界町から依頼し、研究を行って貰う方に対し、旅費等の補助を行っています。今後は、依頼した方に町民に向けた情報共有の場を設けていく予定です。また、研究職・学生問わず喜界島に関する論文を収集し、データベースの作成を行います。

④ 展示・施設

現在、喜界島サンゴ礁科学研究所、埋蔵文化財センター及び歴史民俗資料室において学術展示が行われています。これらの内容をさらに充実させ、島民及び観光客にジオパークに向け活動していることや島全体がジオパーク活動に携わっているという意識付けにつなげていきます。

また、拠点施設がないため、今後は、喜界島のジオパークとしての拠点施設について整備を計画していきます。

3. 防災

① 防災

防災については、災害は繰り返し起こるものです。ジオパークの取り組みでは、美しい自然と表裏一体の関係にある自然災害について理解し、対策を講じることが求められます。

喜界島ジオパーク推進協議会では、毎年開催される防災訓練を、住民の防災意識を高める機会と位置づけています。また、児童生徒への防災減災への取り組みを行います。喜界島サンゴ礁科学研究所は、津波石や、生きたサンゴから過去の津波の痕跡を探る研究を通じて、地震の発生頻度を調査しています。これらの研究成果を活用し、地域住民へこの訓練を通して、消防や警察による講話に加え、地域の成り立ちや集落に係る災害と地形・地質との関係について学ぶ機会を提供します。

② 設備・備品

現在、喜界町には防災食育センターがあり、1,600食の非常食及び飲料水を備えています。また、喜界町役場には避難した方が使用する毛布等を確保しています。

4. 保全

喜界町民が誇るべき宝である喜界島の自然を次世代に残すべく、現在の環境がかかわることがないように、喜界島全体の保全に努めていきます。

また、観光客が気持ちよくサイトを見て学べることができるよう、サイト周辺の環境整備に努めます。

5. 運営

① 協議会

喜界島ジオパーク推進協議会は、年2回程度の推進協議会を予定しております。

② 地域のジオパークに対する理解を深め、つながりをつくる

協議会で扱う内容を住民に伝達することが今後求められます。説明会やワークショップ、ガイド講習など様々な活動を通して島民のジオパークに対する理解を深め、地域に新たなつながりを作ります。

策定 平成 31 年 2 月 4 日

改定 令和 7 年 3 月 19 日

喜界島ジオパーク推進協議会

評議員 隈崎 悦男

評議員 米田 信也

評議員 寺地 良知

評議員 藤原 隆哉

評議員 渡邊 剛

評議員 乾 和夫

評議員 宜名真 孝子

評議員 松田 裕道

評議員 上園田 慶太

評議員 外内 淳

評議員 吉沢 伸一

評議員 中村 幸雄

学術顧問 松田 博貴

学術顧問 佐々木 圭一

事務局 喜界町企画観光課ジオパーク推進室